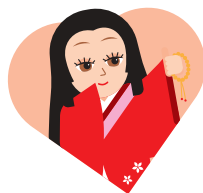


あいち歴史観光
デジタルスタンプラリーが
もっと楽しくなる



家族愛で知る
武将のふるさと愛知



歴史の宝庫あいち

スマホで
参加!

抽選で
豪華賞品が
当たりますぞ！

あいち歴史観光

デジタル
スタンプ
ラリー



Historical Park
時をかけ、歴史と遊べ！

スポット周辺で利用できる割引クーポン等が手に入る!

秀吉・秀長ゆかりの地を
めぐる冒険へ！

「豊臣スペシャルコース」同時開催!

開催期間

5.2

2026

± 10:00

1.1.1

2027

月・祝

17:00

詳細は告知ページを
チェック！

A あいちの歴史観光推進協議会

目次

家族愛で知る武将のふるさと愛知

【尾張】
織田信長と久菴桂昌(生駒の方)の夫婦愛 … 03

【名古屋】
豊臣秀吉と弟・秀長の兄弟愛 …… 05

【知多・西三河】
徳川家康と母・於大の親子愛 …… 09

【西三河】
徳川家康と祖父・清康、父・広忠の家族愛 …… 11

【東三河・西三河】
奥平信昌と家康長女・亀姫の夫婦愛 …… 13



寄稿文執筆

小和田 哲男

1944年静岡市生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程満期退学。現在、静岡大学名誉教授、文学博士。大河ドラマでは2014年「軍師官兵衛」、2017年「おんな城主 直虎」、2020年「麒麟がくる」、2023年「どうする家康」など8作品で時代考証を担当。主著に『徳川家康 知られざる実像』、『軍師・参謀—戦国時代の演出者たち』など。YouTube「戦国・小和田チャンネル」も配信中。

愛知でめぐる豊臣一族の面影 …… 07

三英傑だけじゃない！
愛知ゆかりの武将・姫たちの家族愛 …… 15

告知 あいち歴史観光デジタルスタンプラリー
～時をかけ、歴史と遊べ！～ …… 17

城の名称は、管理している自治体ごとに「〇〇城」、「〇〇城跡」、「〇〇城址」とつけられていますが、この冊子では城の名前は「〇〇城」で表記を統一してあります。

①清洲(清須)城(清須市) ②織田信長公像(清須市) ③於大の方像(刈谷市)
④日吉丸となかまたち像(名古屋市) ⑤徳川家康公像(岡崎市)

〈武将のふるさと愛知〉にも
家族愛で乱世を生き抜いた
家族たちがいた。
さあ、戦国の家族愛と
彼らの足跡を訪ねてみよう。

戦国時代は親子、兄弟が敵対し、
骨肉の争いを繰り広げる出来事が
各地で起こった。
その一方、家族で支え合い力を合わせ、
領国を守り、子孫繁栄に導いた
親子、兄弟、夫婦もいた。
織田信長、豊臣秀吉・秀長、
徳川家康をはじめ
個性豊かな武将や姫を輩出した

乱世を生き抜く、
戦国の家族愛。



織田信長と 久菴桂昌(生駒の方)の夫婦愛

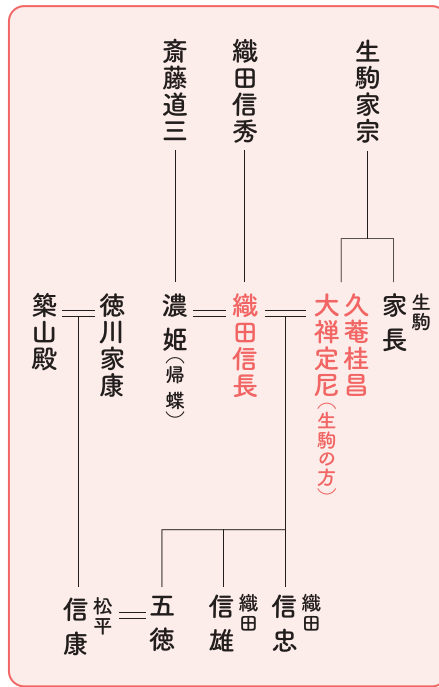
文・小和田 哲男

信長の正室

信長の正室は斎藤道三の娘濃姫である。ただ、濃姫という名は、美濃から来たお姫様に由来する愛称と考えられ、私が時代考証を担当した二〇二〇年の大河ドラマ「麒麟がくる」では江戸時代の地誌「美濃国諸旧記」に依拠して帰蝶で送した。

信長と帰蝶の結婚は天文十七年(一五四八)ないし翌年のことであるが、二人の間には子どもは生まれていない。また、彼女がいつまで

正室の座にあったのかもわかっていない。離縁されたのか、亡くなったのかもわかっていないのである。その帰蝶に代わって正室扱いを受けることになったのが久菴桂昌である。「武功夜話」では名を吉乃といったとするが、傍証史料はなく、尾張国丹羽郡小折(愛知県江南市)の土豪生駒家宗の娘ということから、生駒殿の名で知られている。彼女は、はじめ土田弥兵次という侍に嫁いだが、その弥兵次が弘治二年(一五五六)四月の長山城の戦いで戦死してしまったため、実家に送り返されていたという。生駒家宗の娘は二十歳で未亡人となっていたのである。

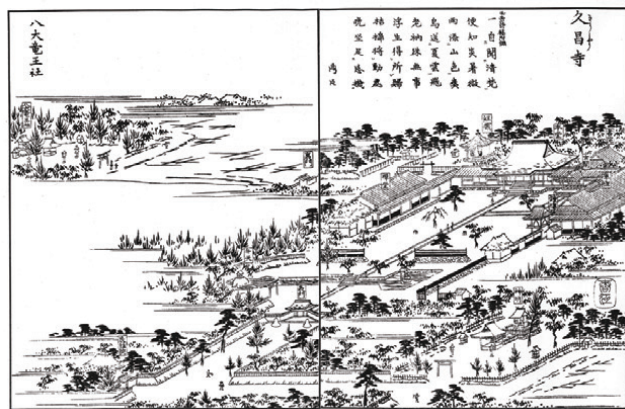


信長の子を産む 久菴桂昌

続いて翌永禄元年(一五五八)には二男の信雄が生まれ、さらに、翌二年には長女の五徳姫が生まれている。文字通り、「腹の休まる」ときのない状態である。



のぶながくん



▲『尾張名所図会』に描かれた久昌寺(江南市提供):もとは龍徳寺という寺だったが、生駒の方の死後にその菩提を弔うため、戒名の「久菴桂昌大禅定尼」から名をとり久昌寺に改められた。令和4年(2022)に解体され現在は公園となったが、久菴桂昌大禅定尼をはじめ生駒一族の墓地が残されている。



犬山城

犬山市

信長の叔父・織田信康が築城したと伝わる。信康の子と対立した信長は、永禄8年(1565)に城を攻略し、尾張統一を果たした。

犬山市犬山北古券65-2 / ☎0568-61-1711



小牧山城

小牧市

永禄6年(1563)、信長が美濃攻略の拠点として築城し、居城とした。近年の発掘調査に基づき山頂部の石垣群が復元された。

小牧市堀の内1-1 / ☎0568-72-0712(小牧山歴史館)・0568-48-4646(れきしるこまき)



岩倉城

岩倉市

応仁・文明の乱にともない尾張北部を支配した守護代・織田伊勢守家の居城。永禄2年(1559)*3、信長に攻められ落城した。

岩倉市下本町城址122 / ☎0587-38-5819(岩倉市生涯学習課)



*3 信長の岩倉城攻めは永禄元年(1558)説もある。



清洲(清須)城

清須市

天文23年(1554)*2に織田信長が入城し、居城とした。信長はこの城を拠点に尾張統一を進めた。

清須市朝日城屋敷1-1 / ☎052-409-7330



*2 信長の清須入城は弘治元年(1555)説もある。



小折城(生駒屋敷)

江南市

戦国時代、この地に勢力を持った生駒氏の屋敷跡。広大な規模を誇り小折城と呼ばれた。信長もしばしば訪れた。*1

江南市小折町八反畑147 / ☎0587-54-1111(江南市生涯学習課)



*1 久菴桂昌の菩提を弔った久昌寺は廃寺となったが、跡地には生駒家代々の墓石が残されている。

あいち歴史観光
デジタルスタンプラリーでめぐる

家族愛 スポット

尾張

文・小和田 哲男



ひでよしくん

兄秀吉のブレーキ役
として

秀長がいつ、兄秀吉に呼ばれて武家奉公をするようになったのかははっきりしていない。文書上「羽柴小一郎長秀」と出てくるのが、天正元年（一五七三）なので、その頃であろう。ちなみに、はじめは秀長ではなく、名乗りは長秀だった。織田信長から「長」の一字を与えられたわけで、秀吉に仕えるのではなく、信長家臣の一人としてスタートしたことになる。

『信長公記』に、翌天正二年（一五七四）の信長の伊勢長島攻めで、秀長が羽柴軍を率いていたことがみみえる。このとき、秀吉自身は越前に出陣中で、弟秀長がその分身としての役割を果たしていたことがわかる。同五年（一五七七）、秀吉が上杉謙信との戦い のとき、柴田勝家と意見が合わず、途中で戦線離脱をし、信長から蟄居謹慎を命じられたことがあった。そのとき、秀吉に代わって播磨に乗り込み、黒田官兵衛らと作戦を練るということ



▲豊国神社に隣接する緑地に立つ「日吉丸となかまたち」の銅像(名古屋市)。少年時代の秀吉とそのなかまたちを立像化している。

異父兄弟か
同父兄弟か

豊田秀吉の生い立ちとして通説のように語られるのが、織田信秀の鉄砲足軽木下弥右衛門の子として生まれ……というフレーズであるが、この部分だけでも、二カ所まちがいがある。一つは、弥右衛門はまだ木下という苗字がなかった。木下という苗字は秀吉がねねと結婚してからで、弥右衛門は苗字の無い百姓だったこと。もう一つは、弥右衛門が亡くなったのが天文十二年（一五四三）で、その年に鉄砲伝来があったことは周知の通りなので、弥右衛門が信秀の鉄砲足軽だったことはありえない。

では、通説通り、秀吉は秀吉とは父ちがいの弟なのだろうか。『太閤素生記』は、弥右衛門の死後、母が筑阿弥・竹阿弥とも）と再婚し、秀吉が生まれたとしているが、秀吉の生まれの天文九年（一五四〇）といわれているので、弥右衛門生存中である。同父兄弟とするのが妥当と思われる。



太閤山 常泉寺 中村区

豊臣秀吉の生誕地のひとつとされる。境内には誕生の時に使われた「豊太閤産湯の井戸」や、秀吉ゆかりの「御手植えの柊」がある。



豊國神社 中村区

豊臣秀吉を御祭神として祀り、秀吉生誕伝承地に隣接して創建された。秀吉にちなみ開運、出世のご利益で知られる。



あいち歴史観光
デジタルスタンプラリーでめぐる

家族愛
スポット

名古屋



日之宮神社 中村区

もとは日吉権現と称した。秀吉母が男子誕生を祈願し、日参したという。「日吉丸生母祈願之碑」が残る。



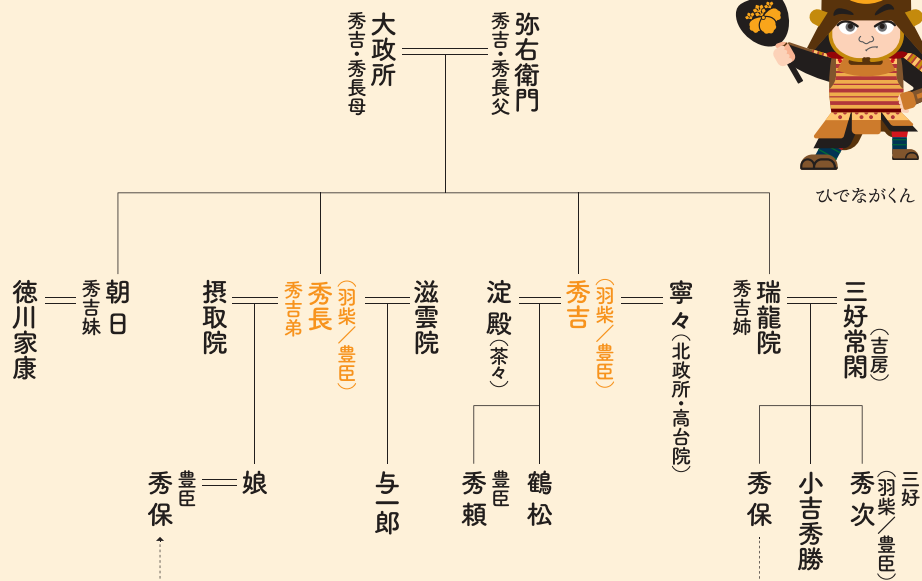
下中八幡宮 中村区

秀吉の氏神とされる。小田原攻めの帰路、秀吉はこの近くで故郷の人々に大盤振る舞いしたと伝承を残す寺社もある。



正悦山 妙行寺

秀吉母の従妹を母に持った加藤清正の生誕地とされる。清正が両親や祖先の菩提のために移築再建した。



ひでながくん

徳川家康と 母・於大の親子愛

文・小和田 哲男



おだいちゃん

いえやすくん

母の盛大な 葬儀を営む

こうして離れ離れになりながらも親子愛は持続しており、やがて家康が駿府城主から江戸城主になる頃には家康も於大の方を江戸に呼んでいる。

慶長七年（一六〇二）二月、於大の方は江戸城より伏見城の家康のもとに赴いており、五月二十二日には参内して後陽成天皇に拝謁している。家康としては母に対する感謝の気持ちを示したものだと思われる。

この時点では、家康はまだ征夷大將軍に任官していないので、厳密な意味では天下人というわけではないが、於大の方としては、息子が天下統一の覇者となった姿を目の当たりにしたわけ、誇らしい気持ちになったものと思われる。その少しあと、於大の方は家康に看取られて、八月二十八日、伏見城で没した。享年七十五。

すると家康は、京都の知恩院で母於大の方の盛大な葬儀を営んで

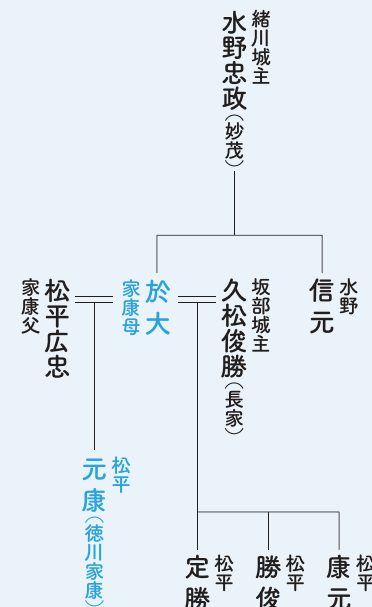
三歳で生き別れ

於大の方は、尾張国知多郡小河（愛知県知多郡東浦町）の緒川城の城主水野忠政の娘で、天文十年（一五四一）三河国岡崎城の松平広忠に嫁ぎ、翌十一年十二月二十六日、家康を産んでいる。

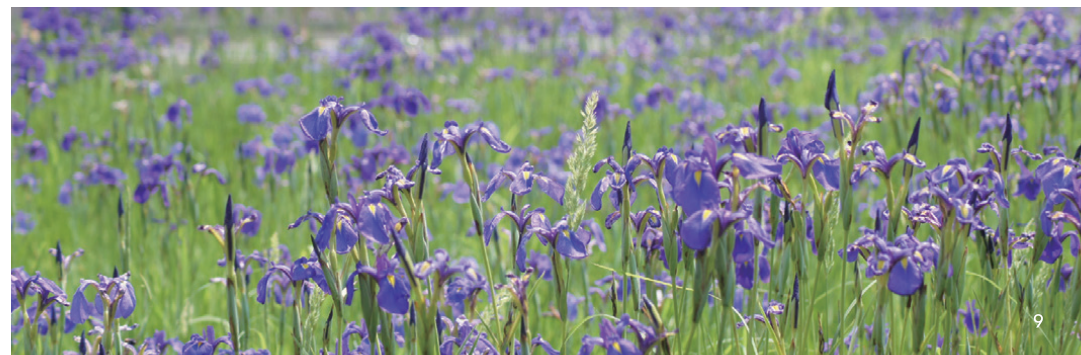
ところが、翌年忠政が亡くなり、家督を継いだ信元は今川義元を離れ、織田信秀に属している。広忠は、「敵方になった者の妹を妻

としておくわけにはいかない」と於大の方を離縁してしまった。家康は三歳で実の母と生き別れとなった。

その後、於大の方は尾張国知多郡阿久比（愛知県知多郡阿久比町）の久松俊勝に嫁しており、俊勝との間に三男（康元・勝俊・定勝）四女をもうけている。家康が今川義元の「人質」として身柄を駿府に移させられたときも必要な生活物資を届けたといわれ、また、於大の方の母華陽院が駿府に居住していたこともあり、華陽院が「人質」時代の家康の生活の面倒をみたといわれている。



▼花かつみの「勝つ」という言葉に家康（当時は松平元康）の武運の願いを込めて於大が、仏前にささげたという伝説がある（阿久比町）。



あいち歴史観光
デジタルスタンプラリーでめぐる

家族愛 スポット

知多・西三河



坂部城 阿久比町

家康父と離縁させられた於大が再嫁した久松俊勝（長家）の城。桶狭間の戦い前に家康が訪れ母と再会したと伝わる。

阿久比町大字卯坂字栗之本谷32-1
／☎0569-48-1111（阿久比町教育委員会社会教育課）



緒川城 東浦町

戦国時代、尾張・三河国境から知多半島に勢力を誇った緒川水野家の居城で、於大の生誕地とされる。

東浦町緒川古城／☎0562-82-1188（東浦町郷土資料館）



宇留山 乾坤院 東浦町

戦国時代、尾張・三河国境から知多半島に勢力を誇った緒川水野家の菩提寺。水野家三代の墓所や於大ゆかりの稲荷社がある。

東浦町緒川沙弥田4／☎0562-83-2506



花かつみ園 阿久比町

花かつみとは、野花しょうぶのこと。於大が家康の武運を願った逸話が伝えられる花。毎年6月に色鮮やかな花を咲かせる。

阿久比町大字草木字上芳池1／☎0569-48-1111（阿久比町産業観光課）



楞嚴寺 刈谷市

曹洞宗。応永20年（1413）遠州浜松普濟寺の利山義聡により開山した。於大は、松平広忠に離縁された後、たびたび当寺に参詣したと伝わる。伝通院ゆかりの品を所蔵し、境内の「水野家廟所」は市指定史跡。刈谷市天王町6-7
／☎0566-21-1974



椎の木屋敷跡 刈谷市

徳川家康生母・於大が、松平広忠と離縁された後、一時を過ごした屋敷。於大は兄信元が織田氏と手を組んだことから離縁させられ、刈谷に戻されたこととなった。この後、信元の薦めで阿久比の久松俊勝に再嫁した。刈谷市銀座6-58-16／☎0566-62-1037（刈谷市文化観光課）



天龍山 常楽寺 半田市

桶狭間の戦いの後、さらに後年本能寺の変の際も岡崎に帰る家康が立ち寄った。時の住職は家康と従兄弟（於大の妹の子）の間柄であった。半田市東郷町2-41／☎0569-21-0268



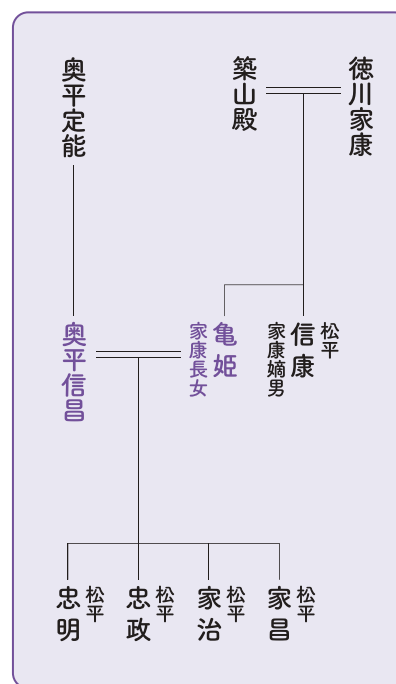
文・小和田 哲男

奥平信昌は、[？]「山家三方衆」の一人。作手奥平氏の嫡流奥平定能の子で、元亀元年（一五七〇）の近江姉川の戦いでは父定能とともに出陣しているが、その後、武田方となっていた。家康は、奥平父子を味方につけるべく、天正元年（一五七三）八月二十日、定能、信昌父子に起請文を提出し、信昌に娘の亀姫を嫁がせるとしている。

なり、同三年（一五七五）五月の長篠・設楽原の戦いで、信昌は長篠城に籠城し、武田勝頼を倒すことになる。家康は約束通り、娘の龜姫を信昌に嫁がせている。龜姫十七歳、信昌は二十二歳だった。夫婦仲は良く、翌天正五年には長男家昌が生まれている。

このあと、信昌は家康の戦いの多くに参陣し、同八年（一五八〇）の遠江高天神城の戦い、同十年の甲州攻め、同十二年の小牧・長久手の戦い、同十八年の小田原攻めにも従軍し、戦功をあげている。慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原の戦い後には京都所司代にも就任している。

慶長六年には、上野宮崎三万石から美濃加納十萬石に転じている。



加納姫様と
恐れられる

加納城は現在、岐阜市加納丸の内に所在し、平城で、このとき、奥平信昌によつて本丸・二の丸・三の丸が築かれている。本丸北西部に天守台があるが、天守があつたかどうかは不明という。加納周辺に

興味深い話が伝えられている。子どもがぐずって、言うことを聞かないとき、親が一言、「かな姫様がくるぞ」というと、子どもがぐずらず、言うことを聞いたというのである。実は、その「かな姫様」が加納姫様、すなわち、城主奥平昌昌の奥女方だという。家康の娘というブランドがあり、ずけずけ思うことを言っていたのかもしれないし、ややかあ天下気味なところがあつたことから、このような話が生まれたのかもしれない。

なお、奥平昌信は元和元年（一六二五）三月十四日に加納城で亡くなっているが、龜姫は寛永二年（一六二五）五月二十七日に亡くなっている。ちなみに、奥平家はのち、豊前中津に転じている。一説に、元和八年（一六二二）の宇都宮釣り天井事件は、龜姫が関わり、弟の二代将軍秀忠に働きかけて本多正純を改易に追いやったともいう。



▲設楽原に立つ復元馬防柵(新城市)。長篠城での信昌の敢闘は、設楽原での織田・徳川連合軍の勝利につながった。



長篠城攻防戦の際、家康のもとに救援の伝令に向かった鳥居強右衛門の生誕地の石碑と礫姿の木像が安置されている。

豐川市市田町中之島57 / ☎0533-86-4577



長篠の戦いに敗れた武田勝頼が敗走途中に立ち寄ったとされる。その後、城は奥平信昌らによって攻略され、信昌が領有した。天正18年(1590)に家康に従い関

東移封後に廃城となった。豊田市武節町シ
口山/☎0565-83-3200(いなぶ観光協会)



奥平信昌に嫁いだ亀姫の発願により建立された。亀姫との縁から寺紋には葵の紋が特別に許された。境内には亀姫の墓も建てられている。回廊

新城市西入船22 / ☎0536-22-1473



長篠・設楽原の戦いの決戦場を望む丘陵地に建つ。戦いの経緯、火縄銃の役割、さまざまな種類の火縄銃を展示する。

新城市竹広字信玄原552/☎0536
-22-0673



天正3年(1575)の長篠城攻防戦では武田軍の猛攻に対し、奥平信昌が堅守した。土塁、堀が残るほか、長篠城址史跡保存館も見どころ。

新城市長篠字市場22-1／☎0536-32-0126(長篠城址史跡保存館)



あいち歴史観光
デジタルスタンプラリーでめぐる

家族愛
スポット

東三河·西三河

三英傑だけじゃない！ 愛知ゆかりの武将・ 姫たちの家族愛



ただつぐくん

家族愛で乱世を生き抜いたのは、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康だけじゃなかった。三英傑に仕えた愛知ゆかりの武将や姫たちが紡いださまざまな情愛の記憶。彼らの足跡をたどり、その絆が刻まれた歴史の現場を訪ねてみよう。

◎参考文献 平野昭夫「三河松平一族」洋泉社M.C.新書／すずき孔「マンガで読む戦国の徳川 武将列伝」戎光祥出版／図説前田利家編纂員全編「図説前田利家」(尾山神社)／あま市美和歴史民俗資料館編「あま市と戦国武将」(あま市美和歴史民俗資料館)／その他 常滑市ホームページ「江戸(こ)ゆかりの地をたずねる」

知多 お犬の方と 子・佐治一成の 親子愛

戦国時代、知多半島西岸を拠点に大野衆と呼ばれた水軍を率い、伊勢湾の海上交通を掌握していた佐治氏。三代目の佐治信方は信長の妹お犬の方を妻に迎え、嫡男の一成を得た。しかし、信方は長島一向一揆との戦いで討死。お犬の方は、信長によって他家へ再嫁した。母と離別した一成だったが、その死後に弔い料を奉納している。一成は秀吉(一説には織田信雄)によって浅井三姉妹の三女江と結婚。小牧・長久手の戦いの際に、織田・徳川方につき、家康に船を提供したことから、秀吉によって江と離縁させられ、所領も没収された。お犬の方の菩提を守る京都龍安寺の塔頭の敷地に、一成の墓も並んでいる。

※龍安寺塔頭「龍光堂」は非公開のため見学はできない。

家族愛 スポット



大野城

常滑市

佐治信方、お犬の方、さらに佐治一成が過ごした城。伊勢湾を望む高台に展望台を兼ねた模擬天守が建っている。
常滑市金山字城山／☎0569-34-8888(とこなめ観光案内所)



尾張 蜂須賀正勝と 子・家政の親子愛

阿波徳島藩の礎は、小者身分の頃から秀吉を支え続けてきた蜂須賀正勝と、その志を継いだ嫡子家政によって築かれた。天正十三年(一五八五)、四国征伐の後、正勝は秀吉から阿波一國を与えられたがこれを辞退。秀吉の側近くで仕えることを望み、阿波一國と家督を家政に譲った。父の想いを受けた家政は、新天地での統治に励む一方、遠く離れた故郷・尾張への敬愛を忘れなかった。父祖発祥の地にある菩提寺の蓮華寺(あま市)や幼少期に学んだ寺の本山にあたる曼陀羅寺(江南市)へ寄進を行った。父から子へ受け継がれたのは、領地だけではなく故郷を尊び、父祖を敬愛する誠実な心だった。

家族愛 スポット



池鈴山 蓮華寺

あま市

蜂須賀家の菩提寺。仁王門は家政が寄進したと伝わっている。寺の周辺は正勝が出生した蜂須賀城跡とされる。
あま市蜂須賀大寺1352／☎052-444-1272



西三河 大久保 忠世、忠佐、忠教の 兄弟愛

徳川十六神将の中でも、大久保忠世・忠佐兄弟の絆は際立っている。家康の父の代から松平家に仕えた二人は、蟹江城の戦いで「蟹江七本槍」と称される武功を挙げた。家康家臣団が分裂した三河一向一揆の際も家康を支え抜き、長篠・設楽原の戦いでの戦いぶりは信長から「敵について離れぬ。よき膏藥のごとく」と絶賛されたほど。この兄たちの背中を見て育ったのが、末弟の彦左衛門忠教。彼は兄たちと戦場を駆け抜けるかわら、後に『三河物語』を執筆。そこには一族の忠義と兄弟の活躍を伝えたいという想いが込められていた。兄たちが武功で礎を築き、弟が筆でその志を不朽のものとした。

家族愛 スポット



本證寺

安城市

三河一向一揆の際、一揆勢の中心拠点の一つとして家康と戦った。二重の堀や土塁がめぐることから「城郭寺院」とも呼ばれる。
安城市野寺町野寺26／☎0566-99-0221



名古屋 前田利家と 妻・まつのお夫婦愛

加賀百万石の礎は、信長、そして秀吉に仕えた前田利家と正室まつの手によって築かれた。若年時に信長の怒りを買った浪人生活を送るといふ逆境もあったが、利家は各地の戦場を駆け抜け、やがて能登一國を治める大名へと上り詰めた。一方、幼くして父を亡くし、荒子前田家で育ったまつは、永禄元年(一五五八)に十二歳の若さで二十二歳の利家のもとへ嫁ぐ。ふたりは仲睦まじく、二男九女を儲けている。天正十二年(一五八四)、加賀末森城の戦いでは出陣する利家や家臣団を叱咤激励したという男勝りな逸話も残す。利家の死後、自ら徳川家の人質として江戸へ向かい、命懸けで前田家を守り抜いた。

家族愛 スポット



荒子観音寺

中川区

尾張四観音のひとつ。前田利家が本堂を再建したと伝えられる。多宝塔は天文五年(一五三六)に再建された名古屋市内最古の木造建築物。
名古屋市中川区荒子町宮窓138／☎052-361-1778



東三河 酒井忠次と 妻・於久の夫婦愛

徳川四天王の筆頭、酒井忠次は、早くから家康を補佐してきた重臣。永禄八年(一五六五)、忠次は東三河の要衝・吉田城(豊橋市)を与えられ、今川や武田と戦う一方、外交面でも活躍した。そのかわらには、家康の叔母にあたる妻於久(「松平清康の娘」)の姿があった。於久は最初の夫を亡くした後、家康によって酒井忠次に再嫁。吉田城に入った於久は「吉田殿」と敬意を込めて呼ばれたという。忠次との間に四男一女を儲けた。家康の関東移封にともない、嫡男家次とともに下総臼井に入り、碓井姫・臼井殿と呼ばれた。晩年京都に隠棲した忠次と離れたが、京都知恩院には二人の墓が並んでいる。

家族愛 スポット



吉田城

豊橋市

東三河の拠点だったことから戦国期は激しい争奪戦が繰り返された。忠次は城を整備したが、その後も拡張されて近世城郭として生まれ変わった。豊橋市今橋町3／☎0532-51-2430(豊橋市観光プロモーション課)
※鉄櫓の内部公開：火曜から日曜日 10:00～15:00 但し7/1～9/30は 8:00～13:00/休館日：月曜、年末年始(月曜日が祝日の場合は開館)



告知

歴史の宝庫あいち

あいち歴史観光

ラ
ス
デ
ジ
タ
ル
ス
タ
ン
プ
ラ
リ
ー

AICHI Historical Tourism

時をかけ、歴史と遊べ！

スマホで
参加！

開催期間

5.2 2026
土 10:00 ~

1.11 2027
月・祝 17:00

武将たちの息吹、街道の旅情、名庭の静寂へ
歴史と遊び、お宝を当てよう

あいちは、織田信長、豊臣秀吉・秀長、徳川家康ら、
歴史を彩った英傑を輩出した「武将のふるさと」。
国宝の城や天下人の名城、旅人たちが行き交った街道、
そして、四季の風情を湛えるサムライゆかりの庭園へ。
巡るほどに、あいちの歴史の魅力に引き込まれていく。
さあ、時をかけ、歴史の宝庫へ。心ゆくまで、歴史と遊べ。

参加は
こちらから



参加方法

STEP 1



エントリー(参加)
はこちらから



専用サイトでエントリー！

STEP 2

※スマホ内の画像はイメージです



スポットへ行き、スタンプゲット！
(※位置情報をオンにしてください)

STEP 1



スタンプ数達成後、各賞品の応募画面へ移動

STEP 2

※スマホ内の画像はイメージです



フォームに必要事項を入力し、応募完了！
(※応募は1エントリー1回のみ)

足輕賞



あいち歴史観光
キャンパス
フラットボーチ

1カ所訪問で
応募可能

侍大将賞



あいち歴史観光
ステンレス
マグカップ

5カ所訪問で
応募可能

一国一城主賞



みかわ牛すき焼き用
4名様分 ※1万円相当

尾張・名古屋・知多・西三河・東三河の
5エリアから各1カ所以上、
計30カ所を訪問で応募可能

千成ひょうたん賞



ホテルインディゴ犬山有楽苑
3万円商品券

尾張・名古屋・知多・西三河・東三河の
5エリアから各1カ所以上、
計50カ所を訪問で応募可能

天下人賞



あいち歴史観光
デジタルスタンプラリー
オリジナル量コースター

全スポットのスタンプを
獲得し応募で必ずもらえる

※賞品画像はイメージです

参加方法など詳しくはこちら

スタンプラリー
特設サイト



FAQ
よくある質問



お問い合わせ先

ラースポットとなっている施設等では、
スタンプラリーに関するご質問はお答えしかねます。
ご質問等は下記お問い合わせ先にご連絡ください。

あいちの歴史観光推進協議会デジタルスタンプラリー事務局

TEL 052-265-7612 午前10時～午後5時(土曜日・日曜日・祝日・年末年始を除く)

MAIL aichi-rekishi-rally@adjust-inc.jp

●注意事項 ※本サービスは、iPhoneの場合 iOS12以降 + Safari(ブラウザ)、Androidの場合 Android 6.0以降 + Chrome(ブラウザ)での動作保証
をしています。それ以外のブラウザでは利用できない場合があります。※フィーチャーフォン、PCおよびタブレットは非対応です。※ご参加の際は
Cookieの受け入れ設定を有効にしてください。無効のままご参加されると、スタンプ情報が保持されませんのでご注意ください。※GPS機能が
ない端末、およびGPS機能を「オン」にしていない端末、ブラウザの位置情報をブロックした場合、スタンプを取得できませんのでご注意ください。
※デジタルラリーへの参加は無料ですが、通信料は参加者様のご負担となります。※デジタルラリーの内容は予告なく変更される場合があります
ので、ご了承ください。※QRコードは、(株)デンソーウェーブの登録商標です。